

# 手術記録 2 (必須主要手術)

No. 1

## 胃全摘

申請者氏名 九段 一郎

手術年月	2002年1月	認定施設名	千代田医科大学病院
術者・助手の区別	助手	関連施設名	

疾患名	術式名
胃癌	胃全摘術(噴門側胃切除を含む)

### 診療概略

1. 初診から手術まで  
2002年1月中旬:心窩部痛で当院内科受診.内視鏡検査で胃体部小彎に長径40mmの辺縁不整,潰瘍底に島状粘膜を有する出血性潰瘍を認めた.生検の結果はgroupV(por2)であった.EUSではMP層の肥厚を認めた.
2. 術前診断名・占居部位  
IIc進行癌,中上部(MU)
3. 術後経過  
食道空腸吻合部にminor leakageを認めたが,術後18日目にはleakageを確認できなくなった.2002年2月下旬:術後28病日に軽快退院した.
4. 術後合併症有無とその病名  
食道空腸吻合不全

### 手術所見

1. 悪性・良性の区別  
悪性(原発性)
2. 肉眼所見(癌取扱い規約に準じて記載)  
54 x 46mm, MU, Less-Ant, 3型, T2, N2, H0, P0, CY0, M0. PM(-), DM(-)
3. 進行度  
stage III A
4. 根治度  
B
5. 術式名  
胃全摘術(噴門側胃切除を含む)
6. リンパ節郭清度  
D2
7. 再建法  
Roux-en-Y吻合再建とし,食道空腸吻合については器械吻合.
8. 術中特記事項  
No.8aリンパ節(総肝動脈幹前上部リンパ節)転移陽性と判断したため,大動脈周囲リンパ節(No.16a2, No.16b1)の一部をサンプリングし迅速病理組織診に提出した.同リンパ節においては,転移陰性であることを術中に確認した.

手術記録 2  
(必須主要手術)

No. 2

直腸癌の手術

申請者氏名 九段 一郎

手術年月	2000年10月	認定施設名	千代田医科大学病院
術者・助手の区別	術者	関連施設名	千代田外科病院

疾患名	術式名
直腸癌	直腸切断術(悪性)

診療概略

- 初診から手術まで  
2000年9月下旬:下血を生じたため近医を受診したところ、上記診断にて当科を紹介された。なお、CEA,CA19-9値は正常であった。  
2000年10月上旬:当科入院。諸検査で遠隔転移のないこと、EUSで深達度A1以深ということで手術適応と診断した。
- 術前診断名・占居部位  
直腸癌・上部直腸(Ra)
- 術後経過  
術後、排尿障害を認めましたが、次第に改善した。2000年12月中旬:術後28病日に軽快退院した。
- 術後合併症有無とその病名  
術後排尿障害

手術所見

- 悪性・良性の区別  
悪性(原発性)
- 肉眼所見(癌取扱い規約に準じて記載)  
Rb,rt.2型,40×35mm,AI,P0,H0,M(-),N1(+),D3,OW(-),AW(-),EW(-)
- 進行度  
stage III a
- 根治度  
A
- 術式名  
直腸切断術(悪性)
- リンパ節郭清度  
D3
- 再建法  
人工肛門増設
- 術中特記事項  
No.251リンパ節5個中2個に転移が疑われた。下腹神経を確実に温存しえたが、骨盤神経叢については、右側の末梢枝に相対的に若干の損傷を余儀なくされた。